



「明治マルチプルオフenseの生みの親」

野崎 和夫監督

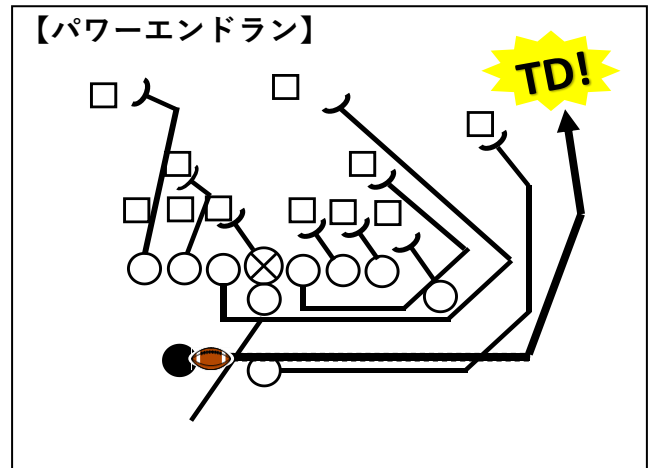
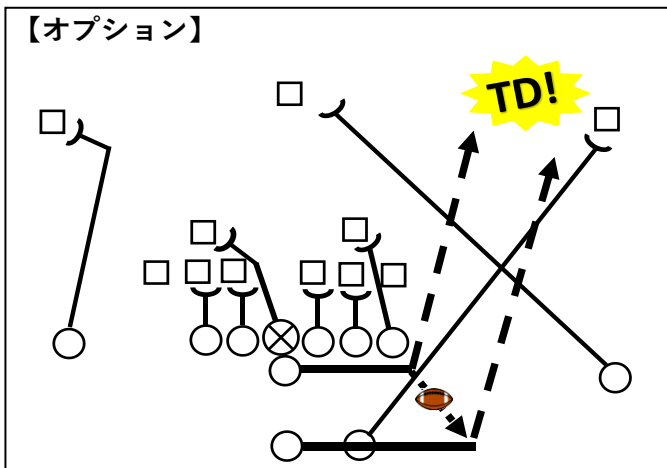
【1955年卒 1962年～1999年監督 通算戦績：165勝81敗4分（公式戦のみ）】

野崎総監督は卒業後数年防衛大学のコーチをなさっており教え子に京都大学元監督水野 弥一さんがおられます。明治大学での37年間の監督在任中を4度甲子園ボウルに連れて行ってくださった名将です。残念ながら優勝にはあと一歩手が届きませんでした。「無冠の名将」と言えるでしょう。

特に第23回（1968年）は36-38（余談ですが私は1年生でした） 第31回（1976年）は22-29 そして今も語り継がれている第40回（1985年）は46-48でした。第30回（1975年）は7-56の大敗でした…。

「フットボールは万が一、千が一、百が一、拾が一ミスがあったらダメなんだ！」が野崎総監督の口癖でグリフィンズHPのHISTORYにも書かれています練習は基礎技術の反復・反復でした。ミスすると容赦なく石が飛んできました。野崎総監督はQB出身ですからコントロールは抜群でほぼ百発百中でヘルメットに当たりました。昔のヘルメットは今の物と違って中が空洞（通称：吊り天）でしたからよく響きました。グラウンドでは厳しい野崎監督でしたが練習後は監督部屋（通称：オヤジ部屋）に呼ばれクォーターバック(QBの心構え・プレーの組み立て方等々)について丁寧に教えて頂きました。その頃のオフense体型は非常にタイトな体型でしたがいち早くプロ体型を導入し看板プレーであるオプションを展開しました。ライバル校である日本大学の故篠竹監督が「闘将」なら野崎監督は「知将」であったと言えます。

【当時の代表的な明治のプレーです】



【昔のヘルメットです】



顔を守るの現在のよう頑丈なものではなく空洞のプラスチック製で写真のような2本バーでQBは1本バーでした



内部はこのようになっていますよく響きました…(>_<)

文責：吉井 元（1972卒）